

米軍基地を地域資源とした英語交流拠点の効果検証

ー岩国市英語交流センター（PLAT ABC）の事例ー

永木 健一

1. はじめに

岩国市は、山口県東部に位置し、広島県との県境にある人口約12万5千人のまちである。極東最大級の航空基地である米海兵隊岩国航空基地が所在していることで、市の人口の約1割に当たる約1万3千人の軍人軍属とその家族が居住している。

基地関係者は、2～3年のサイクルで世界各地を移動しており、基地のあるまち、特に岩国市には、さまざまなアメリカ文化がもたらされている中で、岩国市民と基地住民との間でさまざまな交流活動が行われている。

基地と言えば、騒音や事件事故などのマイナスイメージがあるが、岩国市は、基地関係者を「よき隣人」として、地域の資源として活用するさまざまな「まちづくり計画」を行っている。

平成31年には、内閣府から地方再生計画の認定を受け、英語特区として「英語交流のまちIwakuni 創生プロジェクト」を開始しており、英語教育や英語を核としたまちづくりを進めている。

筆者は、本プロジェクトの計画当初から携わっており、幸いにも多くの市民や基地関係者と接することができた。2022年（令和4年）3月、基地関係者を含む市内在住外国人と市民間の自然な交流を生み出す交流活動の拠点として、岩国市英語交流センター（PLAT ABC）（以後、PLAT ABC）を供用開始した。PLAT ABCにおいては、外国人と市民が交流するためのさまざまなイベントなどが催されている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、PLAT ABCのさまざまな交流事業を通して、異文化理解や国際的志向性、コミュニケーション力の向上などの点について、どのような意識変化が現れるのかを実践を通して考察を加えたい。この事業の効果検証として、岩国市民の内面にどのような変化が生じているのかを明らかにしたいと考える。

3. PLAT ABCの施設コンセプト

○学びのセーフティーネット

参加料は、実費相当分を除き無料とし、全ての者への学習機会の確保

○自然な交流を生み出すため、飲食をマストアイテムと定義

市の事業として、飲み物やスイーツなどを販売

○設えの重視

公共施設のイメージを覆す、ブラックを基調としたおしゃれなカフェイメージ（アメリカンインテリア）

○全国に存在しない基地関係者との交流施設

全国に類を見ない施設を運営するため、首都圏のエンターテインメント企業（合同会社DMM.com）を誘致

4. PLAT ABCの開催イベント（一例）

イベント名	内 容
ボードゲーム大会	国籍を問わず誰もが気軽に遊べるボードゲームによる日米交流会
英語 de プログラミング体験	子ども向けのプログラミング教材を使った体験イベント
日米文化交流イベント	書道や正月文化、ハロウィン、クリスマスなど日米共通の行事を楽しむ交流イベント
英語で絵本読み聞かせ	未就学児親子やプレママ・プレパパをターゲットにした英語の絵本読み聞かせイベント
コミュニケーションワークショップ	学生や社会人向けに、コミュニケーションやチームビルディングなどを学べるワークショップ
ハンドメイド・クラフトワークショップ	アクセサリや手芸、フラワーアレンジ、クラフト、アートなど、初心者でも手軽にできる親子で楽しめるハンドメイドワークショップ

イングリッシュ・キャンプ	アクティビティーを通じた英語体験活動
国際交流カフェ	身近な話題による交流
ティータイムサーズデー	お気に入りのお菓子を持ち寄り、気軽な交流活動
アスクヨーコセンセイ	日本語教室
アフタヌーンコンサート	音楽や楽器を通じた交流活動

年間来場者数は、約3万人で、供用開始後、約12万人が来場している。そのうち、イベント参加者は、年間5,000人で、日本人が3,800人、外国人が1,200人となっており、順調な滑り出しとなっている。

5. PLAT ABCにおける質問紙調査と面接調査の実施と結果

研究上の問い、仮説については、PLAT ABCのイベントに参加したり、施設を利用したりすることにより、児童、生徒、一般市民（高校生を含む）の英語に対する態度がどのように変化するか。

具体的には、利用することにより、どのような意識変容があるか、以下のとおり仮説を考えた。

- 英語への興味関心を持ち、英語に対する学習意欲が芽生え苦手な人も抵抗感が少なくなる。
- リカレントや子どもたちのキャリア形成につながるようになる。
- 基地関係者などの外国人と交流しようとする意識が芽生える。
- 他者への思いやりや配慮をしようとする意識が持てるようになる。
- 世界や異国の文化に目を向けられるようになる。

(1) アンケートの概要

	小学5・6年生	中学生	一般市民（高校生を含む）
標本数	37	48	132
サンプリング	PLAT ABC イベント参加者、施設利用者		
調査手法	質問紙配布、回収		
実施時期	2024年（令和6年）7月～2025年（令和7年）5月		

(2) アンケートの結果概要

	小学5・6年生	中学生	一般市民（高校生を含む）
英語への興味関心を持ち、英語に対する学習意欲が芽生え、苦手な人も抵抗感が少なくなる	54.1%	52.1%	63.6%
リカレントや子どもたちのキャリア形成につながるようになる	54.1%	52.1%	63.6%
基地関係者などの外国人と交流しようとする意識が芽生える	29.7%	37.5%	55.3%
他者への思いやりや配慮をしようとする意識が持てるようになる	18.9%	16.7%	39.4%
世界や異国の文化に目を向けられるようになる	8.1%	6.3%	9.8%

(3) 小学生、中学生、一般市民（高校生を含む）の相違

いずれの属性も、外国人とのコミュニケーションや交流を望んでいる。

	チェックリストの特徴
小学生	英語が得意、不得意な人も「もっと英語を勉強したい」という意欲が生まれている。 積極的にスポーツやゲームなど身近なアクティビティでの活動を望む。
中学生	「将来、英語が役に立つ」と認識 外国人の英会話教室の参加を希望する一方で、身近なアクティビティでの活動も望む。
一般市民（高校生を含む）	英語が得意、不得意な人も「もっと英語を勉強したい」という意欲が生まれている。 市の施策として、外国人との交流促進を望む。

	自由記述（抜粋）
小学生	英語の勉強が楽しい。たくさんのゲームがあって楽しい。英語を少し話せるようになった。海外や岩国基地に行ってみた。もっと英語を勉強したい。英語を使う社会が当たり前になる。
中学生	もっと英語を勉強したい。ここで英語が好きになれそう。もっと参加できるイベントを開催し学べるようにしてほしい。おしゃれな施設で勉強できて楽しい。カフェがおしゃれでまた利用したい。
一般市民（高校生を含む）	楽しみながら英語が勉強できる。少しずつ自信をつけたい。アウトプットの場として活用したい。英語力の不足を認識した。基地がある街ならではの施設。入りにくい雰囲気。駐車場が不足。交流までは繋がっていない。どのように活用したらいいのか不明。カフェメニューも充実して雰囲気もいい。

(4) インタビューの概要

	施設スタッフ	日米協会岩国会長	基地内学校教員	小中学校教員	ALT
対象者数	3	1	1	2	1
調査手法	半構造化面接				
場 所	PLAT ABC、岩国市役所、オンライン				
実施時期	2025 年（令和 7 年）6 月 12 日～7 月 2 日				

(5) インタビューの結果概要

施設を利用することにより、市民の一部では英語運用力が向上し、基地関係者へのイメージも「怖い」から「フレンドリー」へと転換する具体例が報告されている一方で、中高生の来館率の伸び悩みや、英語に関心の薄い層への浸透不足が課題とされている。

日米協会岩国会長は、生活相談のハブとして機能しているが現状では不十分であり、PLAT ABC の役割強化の余地があると指摘された。基地内学校教員は、日米だけでなくネパール、ベトナム、中国等を含む多文化交流への拡張していくことを期待している。また、施設が無料であることやカフェが交流の入り口として機能する一方、英語に抵抗感を持つ市民には敷居があるとされている。

6. 考察と結論

PLAT ABC を利用することによる意識変容については、小学校、中学生、一般市民（高校生を含む）すべての属性において変容が見られ、特に一般市民において顕著であるということが確認できる。

岩国市において、市に顕在するさまざまな課題を解決するために行われているまちづくり施策の一つとして、一定の成果として寄与していることは明らかである。

7. 今後の課題と展望

PLAT ABC は、利用者に対する英語への学習意欲の向上のほか、交流する意識や他者への配慮の面でも有意なポジティブな変化を生み出している。一方で、異文化関心の伸長や中学生、高校生、英語への関心が薄い属性の取り込みは大きな課題となっており、ニーズに合わせたマッチング設計、開催時間帯、PLAT ABC 以外の施設における出前講座の開催、多文化の推進、情報発信の手法の再構築が今後の鍵となっていくと思われる。

PLAT ABC の存在は、日常的に英語による接点を創出することで、市民の日常生活の行動転換を引き出すトリガーとして機能し始めている。楽しい交流による接点から基礎力へ、そして相互理解と共生という階段を、属性ごとに最短な距離で到達できる導線づくりが求められる。

今後の「英語交流のまち Iwakuni 創生プロジェクト」については、日米協会岩国会長は、キャッチフレーズである「英語があふれるまちいわくに」には、まだまだ程遠い状況であるとされた。しかし、身近に外国人と接する機会の多い岩国市は、地域課題を抱える他の自治体と比較しても、飛躍的に成長する可能性を秘めているといえる。PLAT ABC を中心とした、関係機関や各種団体の今後の活動に期待したい。